

課題名	2.4. 窒素施用量と温州ミカンの葉果比との関係について
成果の要約	<p>適正葉果比を2.5とした場合、荒摘果時における摘果による結実調整の幅を摘果可能指数として算出した。</p> $\text{摘果可能指数} = \left[ \frac{\text{着果数} - \text{適正果数}}{\text{適正果数}} \right] \times 100$ <p>* 適正果数 = 全葉数 ÷ 2.5</p> <p>(1) 荒摘果前におけるN1区の着果数は適正果数を下回る年が多く、上回った年でも僅かな量であった。N3区では適正果数より毎年上回りその量も多かった。N2区は中間的傾向を示した。</p> <p>(2) N1、N2区の摘果可能指数はN3区と比べ低く、また年による変動も大きかった。</p> <p>(3) 以上のことから窒素施用量が少なすぎると摘果による結実管理の余地が少なく、高品質果実の安定生産が困難であるといえる。</p>
成績概要	<p style="text-align: center;">摘果可能指数の年次変化</p> <p style="text-align: right;">(長崎県果樹試験場)</p>